

第 35 回運営小委員会 議事録

1. 開催日時：平成 29 年 10 月 13 日（金）10:00～12:30
2. 開催場所：中国電力株式会社 本社 1 号館 3 階 3-2 会議室
3. 出席者：渡邊（東北大学）、高木・山本（東芝）、久宗・中野（原電）、赤峰（関西電力）、林田・宮澤・田川（東京電力）、寺地（INSS）、稲垣（中部電力）、荘田（三菱重工）、長瀬（日立 GE）、河村（電中研）、大橋（オルガノ）、内田・塙（JAEA）
【敬称略、順不同】

4. 議事

(1) 前回議事録の確認

前回運営小委員会議事録について、了承された。

(2) 第 32 回定例研究会について

次回幹事である林田委員（東京電力）より、資料に基づき第 32 回定例研究会の案について説明がなされた。

開催日時は平成 30 年 3 月 20 日（火）13:30～17:00、場所は東京電力 電気の史料館ミュージアムホールとし、定例研究会の前、午前に同史料館にて第 36 回運営小委員会を開催することとなった。

定例研究会のテーマについては廃炉全般を対象とし、まず基調講演をどなたかにお願ひし、その後、商業炉、福島廃炉のトピックスを報告頂く。さらに、総合討論として、本日と同様に若手を交えてのパネルディスカッションを設定する方針で、引き続き詳細を検討することとなった。

(3) 2018 年春の年会@大阪大学 企画セッションについて

山本委員（企画担当）より、資料に基づき今後の企画セッションへの対応について説明がなされた。

現在、新たな観点を取り込んだ水化学ロードマップの改訂作業が進められており、改訂前ロードマップも発行の 2 年前に企画セッションで紹介した実績もあることから、今回の改訂版ロードマップの紹介が企画セッション提案の一案となる。

ロードマップの改訂作業は現在取り組み中であることから、2018 年春の年会における企画セッションは見送り、2018 年秋の大会を目標にすることとした。

(4) 3 部会合同夏期セミナーについて

山本委員（企画担当）より、資料に基づき 3 部会合同夏期セミナーの開催場所と時期について説明がなされ、7 月 11～13 日@つま恋リゾート彩の里での開催、8 月 8～10 日@掛川グランドホテルでの開催の二つの案が示された。

8 月 8～10 日@掛川グランドホテルでの開催を軸に調整を進めることとし、開催日は可能な限り 8 月第二週の前半で設定することとした。

(5) 2017 年度部会報の発行について

長瀬委員（広報担当）より、資料に基づき 2017 年度の水化学部会部会報（第 9 号）の目次案について説明がなされた。

巻頭文については、久宗副部長から寄稿頂く事で副部長の了解が得られた。特別寄稿については、プラント再稼働に関わる水化学管理の準備と実績に関するテーマとし、第 25 回定例研究会で発表された川内発電所及び伊方発電所の取り組みに関する内容を基本に、九州電力及び四国電力に寄稿をお願いすることとした。なお、赤峰委員（関西電力）に両電力との調整および取り纏め役を引き受けて頂けることとなった。アジア水化学シンポジウムの報告に関連して、参加者を代表して賞を受賞された中野氏に感想等を執筆いただけることとなった。

また、水化学部会における「部会賞」を設定してはいかかとの提案があった。「部会賞」の素案を部長及び副部長が検討し、次回の運営小委員会で議論することとした。

(6) 保全ハンドブックの改定について

久宗副部長より、資料に基づき日本保全学会 保全ハンドブックの作成工程について、印刷・製本までのスケジュールが報告された。

(7) 水化学ハンドブックの改訂について

久宗副部長より、資料に基づき原子炉水化学ハンドブックの改訂にかかるコロナ社との調整状況や執筆分担案について報告がなされた。

基礎編についてはほぼ変更は生じないと思われるが、記載を変更する場合には原文著者への配慮が必要である。

(8) AWC2017 関連報告について

渡邊部長より、AWC2017 の報告書を取り纏め中であること、次回の 2019 年は韓国がホストとなり開催されること、次々回の 2021 年は日本がホストとなる予定であること等が報告された。

(9) 2017 年秋の大会企画セッションについて

高木副部長より、資料に基づき 2017 年秋の大会企画セッションについて報告がなされた。

水化学部会が主催となり核燃料、材料及びバックエンドの4部会共催で「福島第一原子力発電所デブリ取り出しに関わる水化学管理」として企画セッションが開催され、参加者は100人を超えるなど高い関心が寄せられた。今後も部会横断的な認識の共通化および情報発信の取り組みが重要である。今回の成果は学会の廃炉検討委員会にも報告しておく方が良いとの意見があった。

なお、当日の講演資料については、講演者の了解が得られたため、部会HPに議事概要とともに掲載する。広報・編集担当にてご検討をお願いしたい。

(10) 水化学ロードマップのフォローアップ状況について

河村委員（企画担当）より、資料に基づき水化学ロードマップフォローアップ検討の進捗状況について報告がなされた。

水化学ロードマップ検討WGがこれまでに三回開催され、目次及び執筆分担当案が決まった。次回のWGは11月始に開催予定であり課題整理票について議論する予定である。

なお、H29年度の予算として計上していたロードマップに係る印刷費は、次年度へ繰り越すこととした。

(11) シビアアクシデント時の核分裂生成物挙動研究専門委員会について

内田顧問より、資料に基づきシビアアクシデント時の核分裂生成物挙動研究専門委員会の状況について報告がなされた。

当該研究専門委員会の下に「FP実験」、「ベンチマーク評価」及び「技術課題抽出」の3つのワーキンググループを設置して活動を開始している。また、同専門委員会の議事録（詳細版）や配布資料等については水化学部会のホームページに掲載する予定である。

(12) HWC 技術報告書の作成状況について

山本委員（東芝）より、資料に基づき「沸騰水型原子炉一次冷却系の腐食環境の定量評価の現状と標準化のための課題（仮称）」技術報告書の作成状況について報告がなされた。

現在、改訂版を作成中であり、11月に第三回検討会を実施して内容を議論する予定である。

(13) 部会ホームページの更新および改訂方針について

稲垣委員（広報担当）より、部会ホームページの運用・更新状況についての紹介とともに今後の改訂方針について報告がなされた。

現在のホームページはHTMLの直接編集で更新作業に労力がかかることから、WordPressによるホームページ作成の外注を検討している。具体的な案をまとめ、次回運営小委員会で（今年度実施する場合はメールにて）審議することとした。

(14)その他

渡邊部会長から、NPC2018 のアブストラクト締め切りが 12 月 31 日まで延長されたこと、11 月 27 日～28 日に福島県富岡町で福島第一原子力発電所の主要コンポーネントの腐食予測と緩和に関する **Fukushima Research Conference** が開催されることがアナウンスされた。

寺地委員（企画担当）より、原子力学会誌 **ATOMOS**（部会トピックス）への寄稿原稿案が紹介された。なお、原稿の内容となっている将来構想検討 WG については、若手への求心力を保ちつつフォローして行くために、解散はせずに活動を今後どの様に変えていくかの議論が必要である。

次回運営小委員会は、平成 30 年 3 月 20 日（火）の午前、東京電力電気の史料館にて開催する。

以 上